



アマモン通信

創刊号

平成20年11月

発行

金沢八景・東京湾
アマモ場再生会議

アマモン通信の創刊について

私たち金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議(略してアマモ場再生会議)は、平成15年から横浜市金沢区の野島海岸や海の公園などで、アマモをふやす活動をしています。もともとは、ボランティアダイバーの人たちが少人数ではじめた活動でしたが、毎年参加する人がふえてきて、今では地元の小中学生を中心に100人以上の人たちがアマモをふやす活動に参加してくれています。そのおかげで、野島海岸や海の公園ではこれ以上アマモをふやす必要がないくらいにアマモ場が大きく広がりました。



左が2005年、右が2008年の野島の海の写真です。黒っぽく見えるところがアマモ場で、たった3年で約2000倍！に広がりました。(写真提供:海兵衛)

これからは、アマモをふやす活動だけではなく、広がったアマモ場を大切に守り育てていくための活動や、まだアマモのことを知らない人たちにアマモの大切さを知ってもらうための活動にも力を入れて、横浜の海を命いっぱい海にしたいと考えています。

そこで、さらに仲間をふやすために、私たちが行っている活動を紹介したり、横浜の海にすんでいる生きものを紹介したりする「アマモン通信」をつくることにしました。これから、2~3ヶ月に1回のペースで発行していく予定です。このアマモン通信を読んだ人は、ぜひお友達にも紹介してくださいね。

アマモ場再生活動の紹介



創刊号の今回は、アマモとアマモ場の再生について紹介します。



~ その1 アマモってなに? ~

アマモは、砂や泥の海底に根っこをのばして生えている植物です。海の中の光や海底の砂や泥などの条件が良ければ、たくさんのアマモが集まってアマモ場をつくれます。波にゆられるその姿は、まさに海の草原です!

そんなすてきなアマモ場は、魚やイカが卵を産んだり小さな生きものが育ったりする海の生きものにとってとても大切な場所で、「海のゆりかご」とも呼ばれています。



アマモの中に産みつけられたアオリイカの卵



アマモのタネ

アマモは、海の中で花を咲かせてタネをつけます。また、地下茎(ちかけい)とよばれる根っこをのばして仲間をふやします。そのため、私たちはタネをまいたり苗を植えたりすることでアマモをふやすことができます。

ちなみに、アマモは別名「竜宮の乙姫の元結の切り外し(リュウグウノオトヒメノモトユイノキリハズシ)」と呼ばれています。とっても長い名前ですね。(きゃろ)

(写真提供:海兵衛)

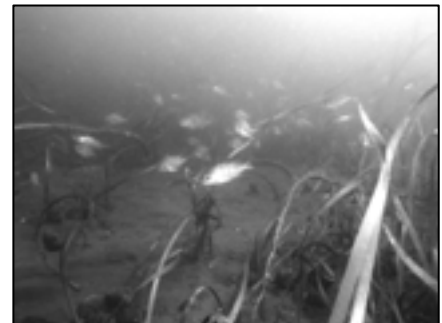
～ その2 なぜアマモをふやす活動をしているの？ ～

明治時代の東京湾にはたくさんアマモが生えていました。でも、工場や家庭の排水などが原因で赤潮や青潮が発生して海の水が汚れたり、海辺が埋め立てられたりしたことで、東京湾のアマモ場はほとんどなくなってしまいました。

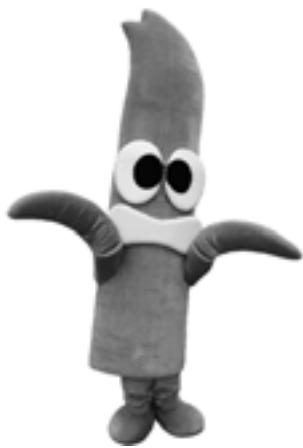
しばらくの間、アマモ場がなくなったことをだれも気にしませんでした。東京湾でとれる江戸前の魚や貝などがどんどん減ってきたとき、漁師さんや東京湾で港の調査や海の研究をしていた人たちが、東京湾の魚や貝が減ったことと、アマモ場が減ったことにつながりがあることに気がつきました。

そこで、昔のように江戸前の魚や貝などがたくさんとれるように、漁師さんやボランティアダイバー、海の研究者、海で働いている人、海が大好きな人たちが集まって、みんなで協力して東京湾のアマモ場を再生しようと話しあい、アマモ場再生会議をつくりました。

そして、みんなで協力しながら、野島海岸や海の公園でアマモのタネをまいたり苗を植えたりしてアマモ場をふやしています。今では、アマモ場がふえたおかげで魚の数も種類も少しずつふえてきています。(きやろ) (写真提供:海兵衛)



アマモンクラブがはじまるよ！



野島海岸や海の公園で広がったアマモ場を守ったり、じょうずに利用したりするためには、地元の海のことをよく知っている人たちのお手伝いが必要なんだ。特に、放課後やお休みの日に海辺を散歩したり、海で遊んだりして野島や海の公園のことをよく知っているみんなの力は、アマモンパワーの源(みなもと)なんだ。

だから、横浜の海や東京湾を命いっぱいのためにボクといっしょに活動してくれる仲間、アマモンクラブの会員を募集しているんだ。海が好きな人だったらだれでも会員になれるよ。

もっと海やアマモのことが知りたい、楽しく海で遊びたい、横浜の海を命いっぱいになりたいと思う人は、アマモンクラブの会員になってボクたちといっしょに海で楽しみながら活動しよう！(アマモン)

アマモンクラブの会員になるためには？

アマモ場再生会議の青少年会員としての入会申し込みが必要です。入会申込書と保護者の同意書に必要な事項を記入して事務局に郵送してください。入会申込書と保護者同意書は、ホームページ(<http://www.amamo.org/index.htm>)からダウンロードするか、下記事務局あてに請求してください。

会員資格:高校生以下または18歳未満

年会費:500円

活動内容(予定):

海の公園・海とのふれあいセンターの「アマモ水槽」のお世話

野島での地引きあみ・生きもの調査への参加(毎月1回)

自分の家でアマモの苗を育てて海に移植する「一人一株」活動 など

(このほかの活動は会員になったみなさんといっしょに考えながら決めていきます)

郵送先:金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議事務局

〒220-0023 横浜西区平沼2-4-22 ジュネスササキ 202(海辺つくり研究会内)

電話:045-321-8601 E-mail:umibeken@nifty.com



全国アマモサミットのお知らせ

12月5日(金)と6日(土)に、みなとみらいにある「はまぎんホール・ヴィアマーレ」で全国アマモサミットが開催されます。

6日の午前中は、金沢小学校、瀬ヶ崎小学校、大道小学校のお友だちが、学校で行っている環境活動について発表します。

また、千葉や東京、さらには四国の四万十川(しまんとがわ)で活動している小学生も発表するので、みなさんぜひ聞きに来てください。

なお、参加したい人は、みなさんの学校に送ったチラシの裏に名前などを書いてファクシミリで045-317-9072 に送ってください。ホームページから直接申し込みもできますよ。

<http://www.meic.go.jp/amamo2008/>

野島の地引きあみ調査

横浜市に残るたった一つの自然の浜「野島海岸」では、ボランティアダイバーの集まり「海をつくる会」のみなさんが中心になって、平成18年からアマモ場で地引きあみをひいて生きもの調査をしています。私たちアマモ場再生会議のスタッフも調査に協力しています。

今年の8月に行われた生きもの調査では、たくさんの種類の生きものを見ることができました。11月に入ってだんだんと寒くなってきましたが、今年の暑かった夏の生きもの調査は、ずっと海に入っていることができとても気持ちのいい調査でした。今回は、8月の調査をふり返って、真夏のアマモ場にいた生きものを紹介します。

8月の調査では、ニクハゼ、メバル、ウミタナゴ、ヨウジウオ、アカメフグ、クロダイ、アミメハギ、ゴンズイ・カマス・ギマ・アイゴ・スズキの赤ちゃん、インガニ、アメフラシなど、たくさんの生きものを見ることができました。

さてみなさん、今あげた魚の名前を知っているかな？アマモン通信の創刊号には、特別付録として生きもの図鑑を付けてあるので調べてみようね。もしかしたら見たことがある魚がいるかもしれないね。海に行くときは付録の図鑑を忘れずに持っていこう！

ちなみに、12月の調査は20日(土)に行う予定です。きっと寒いので暖かい服を着てがんばって参加してみよう！（かおりん）



かおりんのひとことコラム

野島の地引きあみレポートを担当しているかおりんです！

みんなは今まで海の中をじっくり見たことがあったかな？いろいろな生きものがあるみんなの海を、どうしてもっと命いっぱい海にできるか、これからいっしょに考えていきましょう。これからよろしくね。



本の紹介「アマモの森はなぜ消えた？」

テレビでおなじみのさかなクンもオススメ、小説家・山崎洋子さんと海をつくる会のみなさんがいっしょに書いたアマモの絵本です。

横浜の海やアマモ、生きもの写真がいっぱいのったっても楽しい絵本なのでぜひ読んでみてくださいね。アマモのことがもっと好きになるかも！

本屋さんにおいてないときは、お店の人にたのんでとりよせてもらうか、インターネット書店で注文してね。値段は税込みで1,365円だよ。



アマモ場再生会議の連絡先

〒220-0023 横浜市西区平沼 2-4-22
ジュネスササキ 202号
(海辺つくり研究会内)
Tel: 045-321-8601 Fax: 045-317-9072
E-mail: umibeken@nifty.com
ホームページ: <http://www.amamo.org/>

アマモンブログのご紹介

<http://blog.amamon-club.com/>

アマモ場再生会議の活動のほか、海の生きものやイベントなどを、海に関する色々なネタを紹介しています。携帯電話でも読むことができます。みんなも今すぐアクセスしてみよう！



かあちゃんからの手紙

海の好きなみんなへ

海に来ると、生きものがたくさんいるね。浜には色々なものがたくさん落ちているし、岩場でカニを追いかけるもの面白い。岸から釣りをするのも楽しい。夏だったら、もちろん海水浴だよな。

だけど、海の遊びにはルールがあるんだ！それは、赤信号の時は横断歩道をわたらないのと同じように、みんなが海で事故にあって、痛い思いや悲しい思いをしないためのルールなんだ。

海は、みんなにたくさんのもをくれるし、すてきな遊び場になってくれるけれど、ルールを守れない人に対しては、とてもこわい時がある。だから、少しずつ、海で楽しく遊ぶためのルールを覚えていこう。



かあちゃんより

海辺での安全な遊び方 その1「バディを組もう！」

バディっていうのは、英語で「仲間」っていう意味なんだよ。ダイバーは海にもぐるとき、2人以上でもぐるんだ。だって、人間は海の中ではお魚のように自由に動けないし、息もできないから、何かあったら助けあえるように、かならずいっしょにもぐって、いつも仲間が大丈夫か気をつけているんだ。このやり方を「バディを組む」と言うんだ。

海に行く時は、みんなにもバディになってほしいんだ。海で遊んでいても、だれかがケガをしたり、おぼれたりしたらすぐわかるように、仲間同士で注意しあうこと。

もし、なにかあったら、大きな声で仲間やいっしょにいる大人に知らせること。簡単そうだけど、海で遊ぶためにはとても役に立つ方法なので、ぜひみんなに覚えてほしいな。これからは、海に行く時はバディを組もう！

今回は、「お天気に気をつけよう」だよ。(かあちゃん)

(写真提供:ぼによ)



スタッフ紹介

名前:塩田 肇(しおた はじめ) アマモ場再生会議代表

年齢:39才 ニックネーム:はじ

自己紹介:普段は横浜市立大学金沢八景キャンパスで植物が生きるしくみを研究しています。横浜には10年くらい前に引っ越してきました。海にはたくさんの種類の動物や植物がくらしています。陸上では見られない生きものグループもあります。いろんな生きものがくらせる海を大切にしたいと思い、アマモ場再生活動に参加しています。みなさんといっしょに活動できる時間を楽しみにしています。



イベントのお知らせ

- 11月22日(土) アマモのタネまき
(横浜ベイサイドマリーナ)
 - 11月29日(土) 夢ワカメワークショップ
(みなとみらい・臨港パーク)
 - 12月5日(金)~7日(日) 全国アマモサミット
(はまぎんホール・ヴィアマーレ)
 - 12月20日(土) 野島モニタリング&オールクリーン野島
(野島海岸)
 - 12月21日(日) 乙鞆丸体験乗船会
(海の公園)
- 詳しくはホームページ(<http://www.amamo.org/>)を見てね。

編集後記:アマモン通信の創刊号いかがでしたか?できるだけみなさんにわかりやすかつくったつもりですけど、もしかしたらちょっとむずかしかったかな?初めてつくったので色々大変でした。ずっとパソコンの前にすわってお菓子を食べながら作ったので、ちょっと太ったかも... (涙)。第2号は、タネまきイベントや全国アマモサミットの様子をお知らせする予定です。楽しみにしていてください。(きゅろ)